



**使用前のご注意**

※このリールに使用したマグネシウム製の部品はシマノ独自の特殊表面処理を施すことで、海水域での使用も可能となっています。未永くご愛用いただくために「使用後のご注意」「水没時の緊急措置」「定期メンテナンス」についての項目をよくご覧下さい。

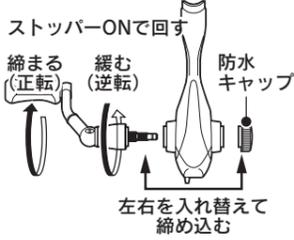
**リール脚保護シートの使用方法**

ツインパワー Mg シリーズを装着する竿のリールシートが金属製の場合、付属のリール脚保護シートを装着していただくことをおすすめします。リールシートとの干渉による特殊表面処理層の損傷を和らげ、耐蝕性を維持する効果があります。



**ハンドルの左右付け替え方法**

ハンドルは左右共用ネジ込み式になっています。左右を入れ替える時はストッパーつまみを ON にしハンドルを数回逆転方向に回転させると、ハンドルが緩み、本体より抜けやすくなります。ハンドルと防水キャップを左右入れ替えて、ストッパー ON で正転方向に廻して本体にねじ込んでください。



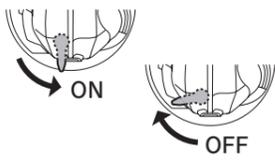
**ハンドルの折りたたみ方法**

ハンドルはネジ込み式になっています。たたむ時はストッパーつまみを ON にして、ハンドルを数回逆転方向に回転させるとハンドルが緩み、折りたたむことができます。のばす時はたたむ時と逆します。(図は左ハンドルの場合です。) ※この時ハンドルを緩め過ぎますと、本体より抜け落ちますのでご注意ください。



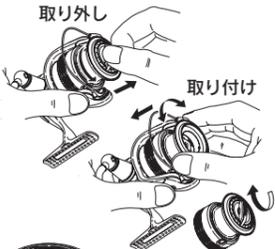
**ストッパーつまみの操作方法**

通常は、ストッパー ON で使用します。  
●ON 逆転止めが作動し、ハンドルは正転方向にしか回りません。  
●OFF 逆転止めが解除され、ハンドルは正転、逆転どちらの方向にも回ります。



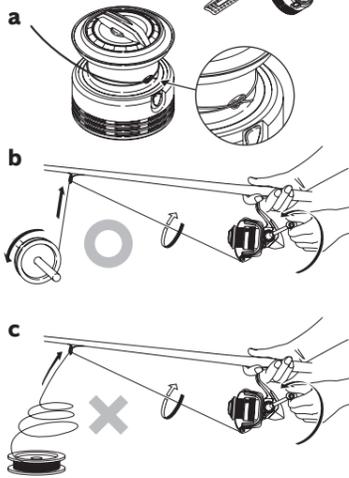
**スプールの着脱方法**

●取り外し方 スプールドラッグつまみを反時計回りに外れるまで廻して下さい。  
●取り付け方 スプールを左右に廻しながら、完全に底当たりするまで押し込んで下さい。スプールドラッグつまみを時計回りに廻すと締め付ける事ができます。



**糸の巻き方**

1. ドラグを強く締め込みます。
2. リールを竿にセットします。
3. 元ガイドから糸を通してスプールの結び目に、結び目を結び目にして下さい。(S タイプ) (図 a) より平らに糸を巻く事が出来ます。
4. 糸が巻かれているポビンに、割り箸や鉛筆等の軸になるものを通して下さい。
5. そのポビンと軸を誰かに持ってもらい、適度(スプールの巻かれた糸にツメを押し込めない程度)なテンションをかけて、ポビンを回転させながら糸を巻き取るようにして下さい。(図 b) 図 c のようにならないようご注意ください。



尚、PE ラインを巻かれる時は、事前に PE ラインを十分に湿らせてください。巻き上げ時に発生する熱(抵抗熱)によって PE ラインが劣化するのを防ぐためです。

**糸ヨレについて**

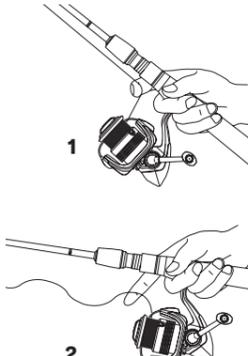
ラインローラー (SR パワーローラー) は、糸を巻き取る時に、糸のヨレを軽減させる役割をもちます。但し、下記のような状況によっては、ローラーの性能を発揮できず、糸ヨレが発生する場合があります。

1. もともと糸がヨレている時。
2. 仕掛けが回転して、ヨリがかかる時。
3. 非常に軽い仕掛けを巻き取り、ローラーが回転していない時。
4. その他糸にかかるテンションが低い時。
5. ドラグを多用した時。
6. キャスティング飛距離が短い時。

**使用中のご注意**

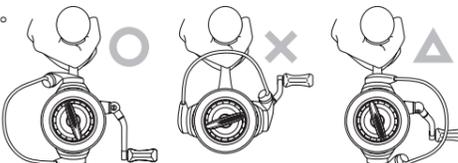
**キャスト方法**

ベールを完全に起こし、図 1 のように人差し指に糸を引っかけて下さい。竿を振りかぶって、人差し指に感じる糸のテンションが最大になる時に、人差し指から糸を解放します。(図 2) その際、ドラッグ力が低すぎると、スプールの逆転し指を切る可能性があります。ご注意ください。キャスト後、ベールを手で戻すが、ハンドルを正転させて (ハンドルオートリターン) 巻き取り入ってください。尚、ハンドルオートリターンの際、ハンドルを廻す勢いが強過ぎると、ベールが戻り切らない事があります。



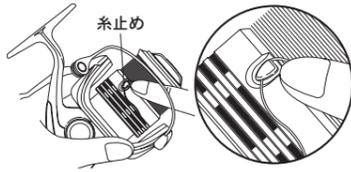
**キャストポジション**

図の「×」の位置で思い切り投げると、ベールが戻って糸が切れる可能性があります。「△」の位置はキャスト後、ハンドルオートリターンしにくい事があります。



**糸の止め方**

ツメの下側から糸を通して固定して下さい。



**糸巻形状の調整方法**

初期設定は下記それぞれの種類で図 A のようにフラットになるように設定されています。巻き上げテンションは、3号 (12lb) 以下のナイロン、フロロラインが約 160g、3.5号 (14lb) 以上のナイロン、フロロラインが約 300g、そして PE ラインは 2号以下が約 500g、2.5号以上が約 1kg です。PE ラインは十分テンションをかけて巻き上げて下さい。スプールの巻かれた糸に、爪が食い込まない事が目安です。又、下記以外の号数の糸巻量は「仕様」をご覧ください。

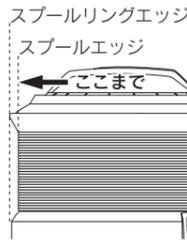
品番	糸の種類	巻量	品番	糸の種類	巻量
1000S	ナイロン 3lb	100m	C3000	ナイロン 3号	150m
C2000S	ナイロン 4lb	100m	4000	ナイロン 4号	150m
2500S	フロロ 5lb	100m			



●調整方法  
上記の基準糸より直径の細いラインを使用すると上図 B の形状となり、逆に太い糸を使用すると C の形状となります。極端な B (=逆テーパ) 形状や C (=順テーパ) は、ともにライントラブルの原因となります。付属のスプール調整ワッシャで、A (=フラットテーパ) に巻き上げて下さい。調整方法は下記の通りです。  
B 形状の場合… 付属の調整ワッシャを 0.25mm から追加して少しづつ増やしていき、A の形状に近づけてください。  
C 形状の場合… 付属の調整ワッシャを 0.25mm から少しづつ減らしていき、A の形状に近づけてください。  
付属しているスプール調整ワッシャは、0.25mm が 2 枚、0.5mm が 2 枚です。尚、使用糸の特性 (堅さ、編み方、表面コートの有無等) によって、同じ号数 (lb 階) でも、糸巻量や糸巻形状が変化します。  
※出荷段階では、基準ラインを使用した場合は特に A (=フラットテーパ) に巻き上げる為の調整は必要ありません。

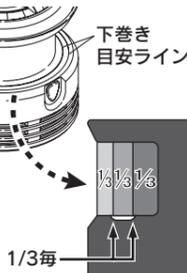
**推奨糸巻量**

スプールのエッジまで巻かれることをおすすめします。(右図) スプールのリングのエッジの位置まで糸を巻いた場合、または弱いテンションで糸を巻いた場合は AR-C スプールの性能が得られない場合がありますのでご注意ください。



**下巻き目安ラインの利用方法 (※ C3000・4000 のみ)**

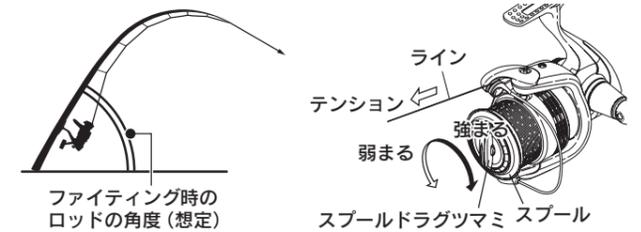
スプールの下巻きに便利な下巻き目安ラインを全糸巻量の 1/3 毎に付けました。使用する糸が少なく下巻きする必要がある場合、一つの目安として参考にして下さい。(※シャロスプールタイプは下巻き目安ラインはありません。)  
(例) C3000 に PE0.8 号 (AR-C) を 150m 巻く場合、PE0.8 号の全糸巻量は 520m です。全糸巻量 520m を 3 (区画) で割ると、約 173m です。3 区画分で合計 520m、1 区画分で約 173m の PE0.8 号を巻くことができます。つまり、2 区画分である外側の目安ラインまで下巻きすると、残り、PE0.8 号が約 173m 巻ける計算になります。巻こうとする 150m より余分に 23m 巻ける訳ですので、下巻きは外側の目安ラインより若干多めにすれば良い事になります。



**ドラッグの調整方法**

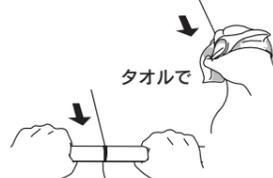
ドラッグとは、その強弱を調整することにより、急激な魚の引きに対し、スプールの逆転して糸切れ (ラインブレイク) を防ぐ機構です。又、その逆転時に発生する抵抗値をドラッグ力と言います。

1. 実際に使用される竿にリールをセットし糸をガイドに通して下さい。
2. ストッパーレバーを "ON" の状態にして、想定されるファイティング時のロッドの角度を保って、図のように糸を引き出しながらスプールドラッグつまみの締め付けを調節して下さい。その際、出来るだけ実際の状況に近づける為、対象とする魚の泳ぐスピードを想定して糸を引き出して下さい。また、ドラッグ力は "実用ドラッグ力" の範囲で設定して下さい。



**根掛かりした時の対処方法**

根掛かりした時は、竿やリールで無理にあおらないで、手にタオル等の布きれを巻くか、丈夫な棒状のものに糸を巻き付けてゆっくりと引っ張るようにして下さい。ハサミ等で手元付近の糸を切ると、現場に糸が多く残るのでおやめください。

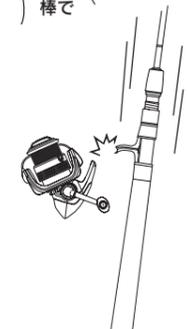


**移動時のご注意点**

タックルバッグ内での他の道具との接触による破損には十分ご注意ください。特に、塩入ワームを本体に密着させたまま保管されますと、腐蝕する恐れがあります。又、濡れたまま湿度の高い状態で、密閉された空間 (自動車のトランク、ダッシュボード) に放置されますと腐蝕を起こす可能性があります。

**落下にご注意下さい。**

リールを竿に取り付けた状態で、アスファルト、コンクリート等の地面に強く落下させると、衝撃でリールの脚部が折れることがありますのでご注意ください。(右図)



**水中での使用は出来ません。**

水中での使用には対応していません。絶対におやめください。

**使用後のご注意**

**保管上のご注意**

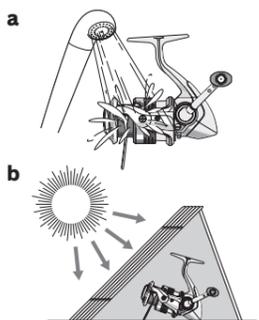
- 海でのご使用後は、「使用後のご注意」「水没時の緊急措置」の方法で塩分を取り除き、良く乾燥させて保管ください。保管の際は必ず竿から取り外して下さい。
- 高温多湿で閉ざされた空間 (自動車のトランク、ボートのストレージなど) に放置されますと、特にマグネシウム部品の耐蝕性を維持できなくなる恐れがあります。よく乾かして風通しの良い場所に保管してください。
- マグネシウム製の部品は特殊表面処理の被膜で耐蝕性を保っています。硬い物とぶついたり、こすり付けることで傷が付き被膜が破れますと、耐蝕性が維持できなくなりますので充分にご注意願います。
- 塩入ワームを本体に密着させたまま保管されますと腐蝕する恐れがあります。又、濡れたまま湿度の高い状態で密閉された空間 (自動車のトランク、ダッシュボード) に長時間放置されますと腐蝕を起こす可能性がありますので、なるべく乾燥した冷暗所に保管してください。

**必ず竿から外して下さい。**

使用後は、必ず竿から取り外して、真水で水洗いしてから保管ください。例え、水洗いされても、竿とセットしたまま放置されますと、リールのフット部とリールシートのフード部が水が溜まり、腐蝕する恐れがあります。

**水洗いして下さい。**

まず、ドラッグ内に水が入らないように、ドラッグを締め込んで下さい。次に、シャワー等の真水で、リールに付着した塩分、砂、汚れを水洗いして下さい。(図 a) 温水はグリスを洗い流す恐れがありますのでおやめください。又、同様の理由で、リール本体を水没させないでください。



**乾燥させて下さい。**

しっかりと水を切った後、直射日光を避け、陰干しして下さい。その際、オイルインジェクションの注油口キャップを外すと効果的です。尚、直射日光、ドライヤー等は、内部のムレを引き起こします。お避けください。(図 b)



**注油して下さい。**

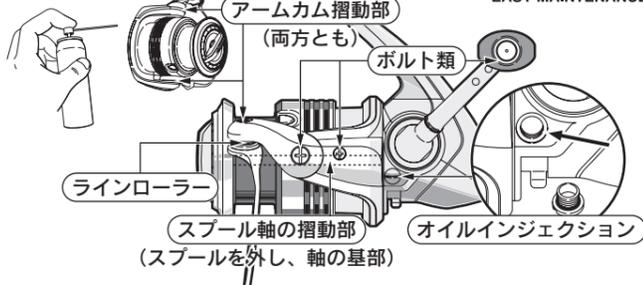
オイルとグリスは下図を参考にいただき、それぞれ間違えないように噴霧して下さい。尚、グリス、オイルは弊社純正品 (下記参照) をお使いください。そうでない場合の品質は保証いたしかねます。ご注意ください。※グリスは、分解してグリスアップする場合以外は必要ございません。

SP-003H (メンテスプレーセット)	¥1,900
SP-013A (オイルスプレー)	¥1,050
SP-023A (グリススプレー)	¥1,100
DG01 (リールドラッグ部専用グリス)	¥800

※最寄りの販売店にてお買い求め下さい。  
上記は 2008 年 2 月現在の品番及び税抜本体価格です。

尚、オイルインジェクションからオイルを噴霧する頻度は、水洗い・乾燥後及び、釣行 5 回につき 1 度、または、次の釣行までの期間が 1 ヶ月以上ある場合に 1 度を目安にしてください。又、1 度の噴霧 (注油) 時間は約 1 秒です。注油後、注油キャップは必ずお閉めください。逆流したオイルで服を汚す場合があります。ドラッグ部にはシマノドラッグ専用グリス (上記参照) 以外は塗布しないでください。ドラッグ専用グリスを必要の方は、アフターパーツで取り扱っておりますので最寄りの販売店にてご注文ください。※オイルインジェクションからのグリススプレーの噴霧はお避けください。ストッパーがきかなくなる場合があります。

**オイル (スプレー) 使用部品箇所**



※グリスは、分解してグリスアップする場合以外は必要ございません。

**ハンドル握りの取り扱いについて**

ハンドル握りには、特殊な材料を使用しており、油分によって侵食されます。メンテナンス等で誤って付着した際には中性洗剤等で洗い流して下さい。

**水没時の緊急措置**

万が一、リールを水没させてしまい内部が浸水した場合は、下記の応急処置をとってください。

- 淡水の場合  
オイルインジェクションの注油口キャップを外し、その部分が下になるようにして水を抜き、十分に乾燥させた後、弊社純正オイルスプレーを 1~2 秒間注油して下さい。
- 海水/汽水の場合  
真水で水洗いをしてください。その後、オイルインジェクションの注油口キャップを外し、その部分が下になるようにして完全に塩水を抜き、内部が乾燥するのを待たずに、最寄りの販売店を通じて弊社サービスに修理品としてお預けください。